

# 朝日塾小学校いじめ防止基本方針

## 1 いじめの定義といじめに対する基本認識

いじめとは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。

なお、起こった場所は、学校の内外を問わない。

(平成18年度 文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」)

上記の考えに基づいて、朝日塾小学校の「いじめ防止基本方針」を裁定した。

## 2 朝日塾小学校の「いじめ防止基本方針」

- (1) いじめの未然防止のための教育活動を推進する。
- (2) 早期発見へ努める。
- (3) 迅速な早期対応に努める。
- (4) 教育相談体制を充実させる。
- (5) 生徒指導体制を充実させる。
- (6) 校内研修を充実させる。

## 3 いじめ防止等の対策のための組織の設置

- (1) いじめ等児童間のトラブルの早期発見・相談のための「教育相談室」を設置する。  
また外部組織として「スクールカウンセラー」を委託し、毎月第1・第3木曜日にスクールカウンセリングを実施する。
- (2) いじめの未然防止は、正しい生活習慣を身につけさせることが重要との考えから「生活指導部」を設置する。
- (3) 正しい生活習慣を徹底させるために、「生活指導部」の中に、各学年の代表者からなる「生徒指導」組織を設置する。
- (4) いじめが発生した場合の対処機関として、校長・教頭・生徒指導主事・指導教諭・各学年の生徒指導からなるいじめ対策委員会を設置する。

## 4 「いじめ防止基本方針」を具現化するための取り組み

未然防止の取り組みの基本は、すべての児童が安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で、授業や行事に主体的に参加、活躍できる学校づくりを進めていくことから始まるという考えのもと、「いじめ防止基本方針」を具現化するための取り組みを以下のように定めた。

- (1) いじめの未然防止のための教育活動の推進。

いじめを防止するには、道徳性の育成と正しい生活習慣の定着、さらに児童一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育むことが必要であるとの考えから、下記の4つを重点目標とする。

- ① 道徳性の育成・・・ありがとう月間、ありがとう運動、チャレンジカード、あったか言葉運動の実施。児童対象にチェックシートを4月と1月に実施し、いじめは絶対に許されないという規範意識を形成する。道徳の授業の充実。
- ② マナーの徹底・・・児童が主体になってあいさつ運動、廊下歩行の徹底、身だしなみの徹底などを行う。
- ③ 掃除の徹底・・・教職員自ら掃除に取り組み、掃除の指導、徹底を図る。
- ④ 自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動の推進

I 一人一人が活躍できる学習活動

ア 児童が主体的に取り組める学習活動の工夫。

イ 授業の中で児童のストレス、不安、不満を高めないように、わかる授業づくりを進める。すべての児童が参加、活躍できる授業を工夫する。

ウ 異学年交流

- ・通学班の活動
- ・交流給食
- ・中等教育学校や幼稚園との交流
- ・6年生の1年生への給食補助

II 安心して自分を表現し、他者との考えの違いを理解し、違いの中に自分の存在意義を感じる自尊感情を育む教育活動を推進する。

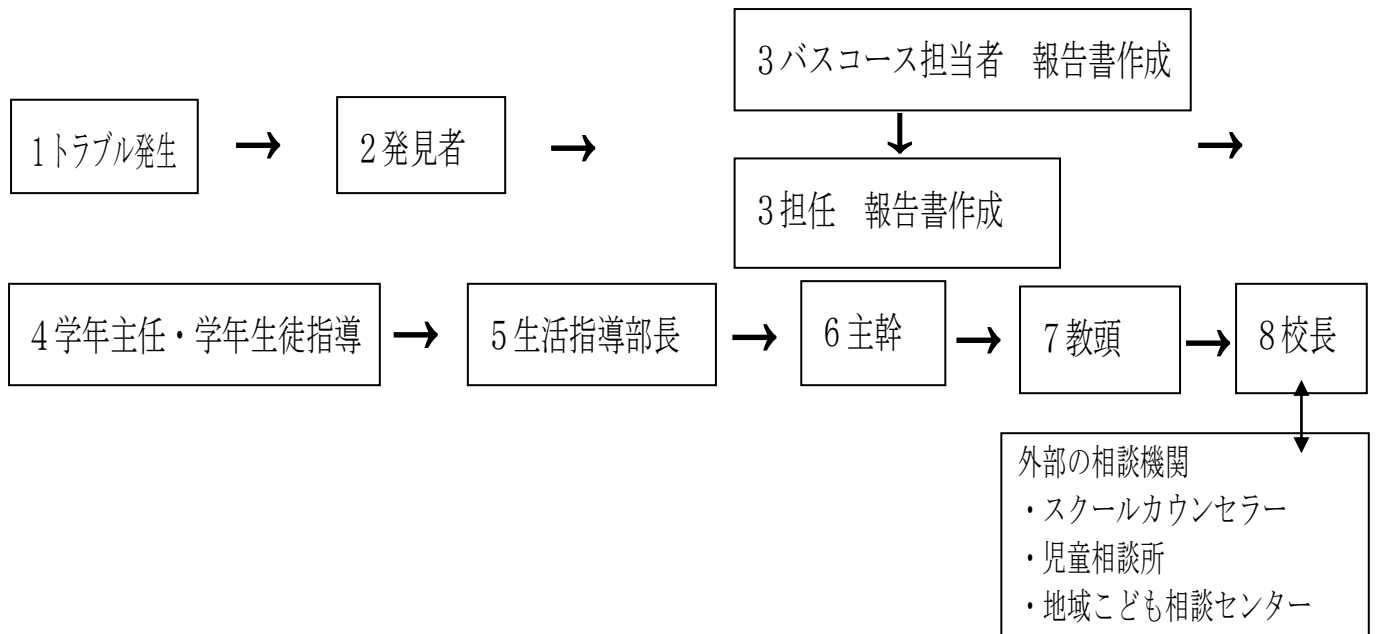
- ・教科の中に「表現科」を設置し、1年生から6年生までに作文・調べ学習・プレゼンテーションの手段・方法を計画的、包括的に学び、自己表現ができるようにする。また、異なる意見も認め合う雰囲気作りに努める。

(2) 早期発見への取り組み。

- ① 児童対象に生活アンケートを年3回実施し、いじめの早期発見に努める。
- ② 保護者対象に生活アンケートを年3回実施し、学校と家庭が連携し、問題の早期発見に努める。
- ③ 毎月1回各学年の代表1名からなる生徒指導部会を開き、各学年でクラス集団の状況や気になる児童の情報交換、共通理解に努める。

(3) 迅速な早期対応への取り組み。

学校の内外でのいじめの芽となるトラブル発生後、学級担任は、「トラブル報告書」を作成し、教職員全体の共通理解、共通認識に努める。いじめに対しては、学年団を中心に対応し、必要に応じて、校長・教頭・生徒指導主事・指導教諭・各学年の生徒指導からなるいじめ対策委員会を設置し、迅速に早期対応する。



(4) 教育相談体制の充実。

- ① 「教育相談室」を設置し、養護教諭と連携し、児童問題や悩みの把握に努める。
- ② 毎月2回、スクールカウウンセリングを実施し、問題や悩みを持つ児童が気軽に相談できる体制を作る。

(5) 生徒指導体制の充実。

- ① 生活指導部を設置し、子どもたちが生き生きと活動できる学校づくりに努める。
- ② 毎月1回、各学年の代表1名からなる生徒指導部会を開き、各学年で気になる児童の情報交換、共通理解に努め、指導にあたっては、学校全体の職員で取り組む。

(6) 校内研修の充実。

- ① 年2回、スクールカウンセラーと教職員の面談を実施する。
- ② 年1回、教職員対象の教育相談研修を実施する。
- ③ 年1回、教職員対象の人権教育の研修を実施する。
- ④ 年間を通して、授業に関する教職員研修を行い、児童の自尊感情を高める授業作りに努める。